

# こどもにユメと音楽を

## 指導法等を学んで14年 音楽教材研究会

社団法人 全日本ピアノ指導者協会のなかで、もっとも活発に活動を続けているといわれる研究会が、「音楽教材研究会（代表・小川静子さん＝東京都北区、上総治子さん＝川崎市）」です。いまから14年前の昭和49年、小川さんの呼びかけでバスティン講習会の直後、ラリー・マクガレル先生を迎え、バスティンの研究と訳をするために10余人が参加し、以後、今日まで毎月第三木曜日、東京・巣鴨の当協会本部会議室に集まってバスティンメソッド等の研究を行っているほか、4年前から有志がワークショップ（研修会）を毎月第一木曜日に当協会会議室で続けています。

「なぜ、教材研究会が14年間も続いたの」——この会報に研究会のことを掲載するに当たって、真っ先に脳裏をよぎったのが、この言葉でした。14年の長きにわたってよく続けられてきたなあ、との思いにかられているのが研究会に参加してきた人たちの、正直な感想ではないでしょうか。

一人の会員が他で受講してきた講座を紹介、その内容をみんなで学び合う。さらに、それをより詳しく研究したいと思えば、その先生（会員）のところへ通う。そしてそこで学んだことを、次の研究会で発表、またみんなで研究し合う——これが教材研究会の内容です。

静かな池の水面に一つ投げられた石の波紋が水面に、そして水面下に広く、深く広がっていくように、会員の心にこの研究会が響きわたっていった14年間であったと思います。一人でも多くの子供に、その子に合った指導法を研究し、さまざまな悩みを話し合える会でもありました。これまでの主な活動を紹介しながらこの会の歩みを振り返ってみますと——。

### 〈あゆみ〉

〔49年〕小川静子会員の呼びかけで研究会発足。以後、毎月第三木曜日に集まって、研究会を開催。



〔50年〕バスティン先生が来日されて直接指導を受けました。

〔51〕ピティナの夏期研修会で研究発表を行いました（小川、川崎、上総の3会員）。

川崎会員が日本で初めて手作りの教材、「けんばんノート」を作成しました。

〔52年〕再び9月、研究・実践の場が与えられ、福田靖子、日下部憲夫、池田早梅先生とともに小川、宮本、川崎、上総の各会員が発表を行いました。

〔53年〕バスティンメソッド研究も佳境に入り、多くのアイデアが生るようになった。またリトミックについて紹介、有志が国立音大の夏期ゼミナールに参加。

〔54年〕バスティンメソッドを日本の子供に取り入れる研究を始めました。また学んでいる子供に張り

合いと楽しみをもたせるために、「修了証」を作成しました。

・ショパン講座（3回）

講師 園部 三郎先生

・ピアノについて調律

講師 竹内友次郎先生

〔55年〕ラリー・マクガレル先生を招き、ジェームス・マーセル著の「音楽的成長の為に」で研究。

・アメリカ教材

講師 浅見 英男先生

・併用教材ク

石井 和子先生

・グローバー教本

講師 小川とも子先生

・日本音楽とリズムと動き

日舞家 西村 和先生

〔56年〕酒井忠政先生を講師に迎えホルボスキームソッドとツィグラー、パルトーク、カバレフスキー等、心で聴く音楽の研究を始め、今日に至っています。

教材研究会が開いている研究会の内容が初めて、ピティナの会報「Our Music」に掲載されました。補助教材ビニールけんぼん、マグネット、ビニール五線が作成されました。

・幼児のソルフェージュ

講師 小川 静子会員

・聴音と創作

講師 池田 早梅先生

・幼児の指導法

講師 橋内 良枝先生

・教材研究 Wir Murizieren

日本の作曲家

[57年] リトミック研究、リズム絵カード、アルフレッド、グローバ一等研究を行いました。

最古会員の川崎会員が沖縄へ移住されることになり、送別会を開きました。

古典舞曲研究のため、有志がサイガバレースタジオに集まって、講習を受けました。(講師 サイガ氏)

・現代曲 講師 武田 宏子先生

・エイブラムソン教授のリトミックを受講して

講師 田村 智子会員

[58年] パスティンメソードの研究が一応、ほぼ終わり、有志が新たに毎月第一木曜日にワークショップを開くことになり、現在まで続いています。

また、小物打楽器とアンサンブルの研究を始め、以後3年間、有志14人が猪瀬雅治先生を講師に迎えて研究を行いました。

・教材研究 ミュージックツリー

講師 田村 智子会員

・手と指の体操

講師 橋内 良枝先生

・ポーランドの教材と折り紙のクリスマスツリーと飾りもの

[59年] 障害をもった方々に音楽を通して情緒教育を行っている丹野修一先生を招き、障害の方たちが社会参加していくためには、どんな指導法をとったらよいか、を勉強。以後2年半続きました。

バスティン先生が来日され、講座が開かれました。また田村智子

会員がフランス・クラーク著の「ミュージカル・フィンガー」等を教材として研究発表を行いました。

・こどもの心理とピアノ指導法

3回 講師 大野 桂先生

・古典舞曲 ク 浜中 康子先生

・小山郁之進先生を囲んでの座談会を開催。

[60年] 各研究会員が、それまでの研究成果を持ち寄り、自慢の「味つけ」ぶりを披露しました。題して「一品持ち寄り昼食会」。会員が珍しい手作りの教材を多く持ち寄ったため、反響が大きく、大好評でした。

前年に引き続き、丹野修一先生を講師に招き、障害児への音楽療法「和声とモード」を勉強。

・教材研究、ベースメソード講習会に参加して

会員で討論会

[61年] 58年から続けてきた打楽器研究の有志が、東京・巣鴨の当協会サロンで、宮本聖子会員による「春が来た」など日本の歌の編曲で、ルンバ、ビキン、カリオカ、ロック、チャチャチャ、アフロ、スパニッシュボレロ等のリズムを取り入れた曲を演奏するミニミニコンサートを開催しました。

吉田文子会員が、小学校低学年生に、オリジナルの曲を作って実際に指導した体験結果を発表しました。

また、上総、田村、前田各会員が「音楽ランドめぐり」、「ソーヨひめとファーデスおうじ」、「ゆびのおさんぽ」「音楽トランプ遊び」などトランプ、すごろく、カードなど子供が親しみやすい教材を作成して発表しました。

上総、田村各会員がピティナの夏期研修会で教材を展示して発表を行いましたほか、新しいバスティンメソードの研究と発表会のアイデア交換会も行われました。

・フィンガートレーニング (藤本雅美先生の講義を受講して)

講師 前田 光子会員

・おかあさんといっしょリトミック 講師 上田 郁子会員  
[62年] 今年度ピティナ ヤングピアニスト・コンペティションの課題曲のテーマとして古典舞曲が取り入れられているため、大島俱子会員が発表、みんなで勉強中。また鈴木慶子会員が、21世記のピアノ教育法といわれる「クルタークのピアノ教育法と「リトミックとオルフ」の発表会記録をビデオテープを使用しながら発表しました。

これは、61年、加勢園子先生の講座を受講して、それを実践、報告したもので、ユニークで楽しくそして奏法につながる有意義なものでした。

また峰岸康子会員がダウン症の子供とともにと題して7月に報告会を行います。

音楽教材研究会では、次号から手作り教材やレッスンのアイデアなどを紹介します。ご期待下さい。

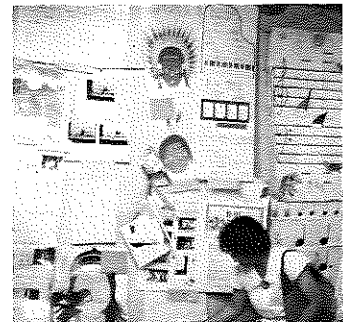
☆☆☆

音楽教材研究会は、今後も会員の発想で、そして互助の精神で運営される研究会です。手作りの教材を発表し合い、いろいろのアイデアを持ち寄って、音楽指導法を研究します。

問い合わせは小川 (電03・914・2970、または0489・75・8357) か上総 (電044・900・2149)

前田 (電03-928-6832)

入会費3000円、年会費10000円(8月は休み)。



昨年の研修会での展示物